

「歯科衛生士によるMFTの実際」

横浜市 大野矯正クリニック

橋本 律子 (はしもと りつこ)



1990年 昭和医療技術専門学校歯科衛生士科卒業
1990年 大野矯正クリニック勤務
1996年～ Mr&MrsZickefooseMFTコースインストラクター
1999年～ 横浜市立小中学校難聴言語通級指導教室臨床診断指導
2002年～ 日本口腔筋機能療法研究会理事

<著書>

「MFT臨床—指導力アップ・アドバンス編—」わかば出版 共著
「MFT入門—初歩から学ぶ口腔筋機能療法—」わかば出版 共著
「舌のトレーニング」わかば出版 共著
「きれいな歯並びと口もとへのみちしるべ—指しゃぶりをみまもる時期・はたらきかける時期」わかば出版 共著

近年、咀嚼・嚥下・発音・呼吸などに関心が高まり、書籍や雑誌、歯科関連の専門誌のテーマに口腔機能が多く取り上げられるようになりました。これからの時代、歯科医療従事者にとってMFT（口腔筋機能療法）の知識は、欠かせないものになってきたのではないのでしょうか。

MFTの主な目的は以下の通りです。

- ①舌・口唇・咀嚼筋などの筋肉の訓練によって、口腔周囲筋の調和を図る。
- ②咀嚼・嚥下の訓練によって、正しい咀嚼・嚥下の方法を習得する。
- ③舌と口唇の姿勢位を学習し、無意識下においても正しい姿勢位を保持できるようにする。
- ④上記のパターンを習慣化し、日常生活において反映させる。

これらの目標を達成させるためには、指導者の知識や技術が必要ですが、それに加え患者さん自身のやる気が左右します。

日本でのMFTの指導者は、矯正歯科や小児歯科に勤務する歯科衛生士であることが多く、歯科医師と協力して、チーム医療の一貫としておこなわれています。歯科衛生士がMFTを指導するメリットとしては、日常的にブラッシング指導などの患者指導において、患者さんに動機づけをおこなっており、行動変容の知識や技術を身につけ、心理的なアプローチを心得ているからです。

今回は歯科衛生士の立場から、MFTの取り入れ方・進め方、エクササイズの種類・方法、口腔筋機能の評価法の提案、指導用媒体の紹介など、MFTの実際を症例とともに報告したいと思います。